

防災ラジオドラマ

グループ「山古志種苧原集落」

タイトル「種苧原防災訓練」

種苧原集落 避難と情報集約ドラマ

【登場人物】

○中野集落

佐藤班長（60代男性）

鈴木（70代男性）

田中さん（60代女性）

高橋（50代女性）

野田部落長（60代男性）

○種苧原地区

山田区長（60代男性）

公民館職員 鳩山さん（40代女性）

村人A（60代男性）

村人B（70代男性）

○市役所山古志支所

渡辺（30代男性）

【プロローグ】

平成2×年9月

新潟県長岡市山古志地域種苧原

山古志では「たなす」と呼ばれており、長岡駅や小千谷駅から向かうと最も奥地の比較的平坦な高原状の山上に広がる集落。

以前は小学校も有ったが今は別の小学校と統合されて廃校になっている。

集落の直ぐ上の丘の上には天谷地と呼ばれる場所があり、公園となって各種宿泊施設がある、また毎年3月には「古志の火祭り」が開催され日本最大の「賽の神」とも呼ばれています。

また、闘牛場もあり、闘牛大会「牛の角突き」が毎年開催されています。この闘牛場はNHKの朝ドラ「こころ」の闘牛シーンでロケ地になり有名俳優・女優が訪れています。

朝9時ごろ

大きな揺れが地域を襲った

【ドラマ本編】

(中野集落集合場所にて)

佐藤班長(60代男性)「鈴木のおちゃん、早いの」

鈴木(70代男性)「おめえさん、佐藤班長の手伝いしなきゃならんからの」

田中さん(60代女性)が遠くから「そこに集まるんだよの～」

2004年の中越地震のころは避難手順についての決まりはなかったが、みんなで協力して近くの広場に集まり、集団で避難をしました。しかし、今では隣近で時集合場所を決めて避難の体制ができています。

場所は道路の交差点の端に有る安全地帯、見通しも良く近所が集まるには良い場所と思われた。

そうこうしているうちに10人ほどが集まってきた。

高橋(50代女性)「最初はここでいいんですよね」

集落の一時避難場所は決まっているが班も集まって移動しようと(安否確認等しやすい)一応集まって一時避難所に移動する話に班として決めてあった。

【ポイント】

各部落別に集まります。
集まる場所は別紙の地図をご覧ください。

その時、また大きな余震。近くの電線が大きく揺れる。

鈴木（70代男性）「おおお、この電線も電柱も少し怖いの」

田中さん「私は、安全地帯と言ってもここは道路なんでちょっと不安ですて」

佐藤班長（60代男性）「いやいやこの場所がみんな都合がいいかと思ったけどやっぱり怖いのですの、あそこの駐車場に変えましょうて」

全員「そうですの、ここは怖いですて」

全員 30mほど離れた工場の駐車場に移動となった。

佐藤班長「皆さん、それぞれの家の家族はみんな居ますかの」

田中さん「うちのお父さんは長岡に行ってっていないけど後は全員居ますて」

鈴木「うちは全員、といってもじいちゃんとおらただけど2名居ます。」

その後も報告が続いた。

佐藤班長「皆さん、家の中や火の周りは大丈夫でしょうかの」

全員「大丈夫ですて」

田中さん「そういえば、元栓切ってねかった、ちっと行ってくるて。」

佐藤班長「じゃあ、わるいけど安全を考えて鈴木さんも念のためついてって下さい。」

ふたりは田中さんの家に向かい、佐藤班長は近辺の道路や石垣を目視点検した。

ふたりは作業を終えると直ぐに帰ってきた。

佐藤班長（60代男性）「皆さん、まずは無事で良かったの。

それでは皆さん、集落の集合場所に移動しましょう。」

先ほどの場所から 100mほど離れた、大きな交差点に隣接した広い駐車場

野田部落長「これで班が揃ったの、班長さんそれぞれの人数教えてくれないかの」

各班が報告を行う。

野田集落長はその数字を用紙に記録してゆく。

野田部落長「集計発表、中野集落では長岡や小千谷に行っている人2名を除いては全員無事。また、そのうち長岡に行っている1名は先ほど携帯で連絡が取れ無事、未確認は1名のみ」

一通り人数の報告が終わったところで

佐藤班長（60代男性）「人数以外の報告ですが、うちの班の最初の集合場所は加工所の駐車場に変更しましたて、あんまり電線の揺れが怖くての」

野田部落長「おお、そうですか。ほかの班はどうですか？」

山田班長「うちも」

野田部落長「それと皆さんの班で道路とかブロックや石垣とか異常はなかったでしょうかの」

全員「特に無かったです」

野田部落長「では、班長以上で区長に報告に行きます。副部落長はここに残っていざと言うときに備えてください。」

部落長以下軽トラックと徒歩で200mくらい離れた区の公民館に向かう。

携帯電話が使えないので徒歩か車両で公民館に行くしかない。情報を足で運ぶ訳です。

（種芋原公民館）

野田部落長が公民館に着くと、公民館の外には各集落の人が既に10名くらい集まっており、さらにこちらに向かっている

【ポイント】

班長を中心に、各班で安否・被害情報をまとめて部落長に報告します。

【ポイント】

部落長はじめ役員が公民館に待機している区長に安否・被害情報を報告します。

人たちも何人か見えた。遠い人は軽トラに乗ってやってきている。

山田区長「到着した集落の方から、確認人数と集落内の道路などの状況を教えてください。」

各部落から報告があがってゆく

山田区長「皆さん、ありがとうございます。けが人は0。地域外に出ている人は8名、そのうち5名は無事の連絡有り。また、各町内の道路状況は問題無しです。ではこれから山古志の各地域や魚沼市との連絡道路の状況を手分けして調べに行ってください。

私たちはここで種芋原全体の状況を山古志支所の方に伝えます。」

それぞれの部落から地域外部繋がる道路がある場合は道路状況をそれぞれが手分けして調査するという取り決めを防災会議で合意してある。

区長の指示の元それぞれが車に分譲して調査に出かけた。

一方区長は携帯電話にて支所に電話をかけようとしたが、先ほどからだめなようにこの時も携帯電話は通じない状況が続いていた。

そこでいよいよ公民館に準備してある衛星電話を使うことにした。

この衛星電話は南の空にある衛星を使っているのでレーダー部分を南の空に向ける必要が有ります。

この日は天気も良かったので南側の駐車場にてやることとなった。

さて、電話の使い方ですが災害直後は支所が順番に山古志の各地区の公民館に電話をかけて状況を聞くという手はずになっています。

各地から支所に一齐に電話をしても話中になるので効率を考えて支所から各公民館への流れとなっているのです。

それによりスムーズな情報集約ができることとなります。

電話がかかってくるまでに区長はこれも決められている報告項目を一つ一つチェックしていました。

そしてついに衛星電話が鳴りました。

鳩山「もしもし、種苧原公民館です。」

渡辺「こちらは山古志支所です、災害状況の報告を受けますので、解る方をお願いします。」

鳩山「はい、山田区長に代わります。」

山田区長「はい、私が区長の山田ですて、報告リストは全部調べて書いて有りますから順番に報告します。」

渡辺「あっ、山田区長、ご苦労様です。では項目1番からお願いします。」

その後、区長は全てを報告した。

そうこうしているうちに、道路状況調査隊の人たちが帰還しはじめた。

村人A「広神方面問題無し」

村人B「栃尾方面、若干崩れた土手が有りますが、自動車走行上全く問題無し。」

など、次々に報告がされた。

これらの情報の支所への報告は次の電話順番を待つか、有る程度時間経過した場合はこちらから電話して報告となる。

山田区長「それじゃあ、皆さん。被害は大丈夫そうですが一応余震の被害も考えられますので防災・災害用の備品の調査に行きましょう。」

区長は次の指示を出し、今度は緊急時の備品のチェックに行くことにした。場合によってはそのまま備品を公民館に持ってきて準備しなくてはならない。

集まっている各部落の役員は自動車に分乗もしくは徒歩で公民館から山手を少し登ったところに有る防災倉庫、旧種芋原小学校に向かった。

公民館で管理してある鍵を開け各教室に分けておいてある備品類をチェックした。

野田部落長「うちの部落は遠いから万が一の余震の停電に備えて発電機借りていぐて。何軒か自前で発電機持っているけど公共のものがあつたほうがいいすけ。」

村人 B「そらのおめえさんとは遠いすけの」

山田区長「野田さん、そうしてください、夜停電になったらおっかねえすけの」

野田部落長は発電機を軽トラの荷台に積んだ。

山田区長「みなさん、おそらく地震は大丈夫だと思いますが、中越地震みたいにでっかい余震が来ないとも限らないすけ、一晩だけでも準備しておいたほうがいいのがあつたら持って行ってくんなせ」

村人 A「じゃあおらポリタンク借りていぐて、近くに水場が無いすけ水道が止まったときに使えるようにしておくて」

その後もとりあえず必要なものを携えてそれぞれが部落に帰っていった。

集落も種芋原区も山古志支所も長岡市も今回の情報を共有しており、なおかつ万が一の準備をした住民の皆さんは無事にこの災害を乗り越えられるでしょう。

終わり